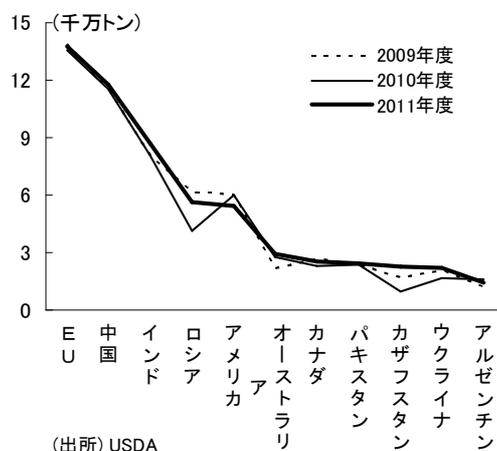


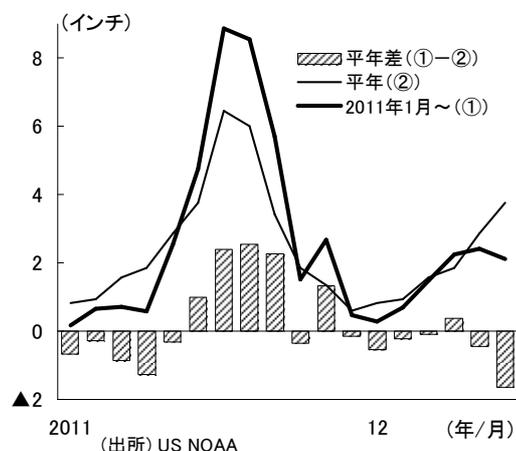
## 穀物価格が一段高 ～ 中印露に広がる早魃 ～

- 7月に入り穀物価格が一段高。大豆は1週間で1ブッシェル当たり15ドル弱から16ドル弱へ1ドル値上がりし、4月末の過去最高値を更新。小麦やコーンも急上昇。最高値更新が視野に。主因は主要生産国での早魃。まず近年の小麦生産量をみると、EUが最大（図表1）。もっとも27カ国合計。1カ国では中国が最大。次いでインド、ロシア、アメリカ。いずれも5～6月、早魃が直撃。なおロシアの穀倉地帯は、西はウクライナ、東は北部カザフスタンに拡がり、3カ国の生産量を合計するとインドを凌駕。
- まず中国の穀倉地帯は華北平原。主要7都市の降水量を平年と比べると、昨年末から今春まで平年並みで推移していたものの、5月に▲0.5インチ、6月は▲1.6インチと月を追って降水不足が加速（図表2）。ちなみに米作が盛んな華南エリアでも6月の降水量は平年比▲1.8インチ。
- 次いでインドでは5月からほぼ全国に亘って降水不足（図表3）。小麦生産エリアの北部各州のなかで、とりわけ生産量が大きいウタルプラデシュ州で同▲3.6インチ、パンジャブ州が同▲2.6インチと大幅。一方、米作も盛んな北東部や南部では、西ベンガル州同▲6.8インチ、ビハール州同▲6.2インチ、カルナタカ州同▲4.1インチなど。
- 最後に、ロシアの降水量にデータ制約。そのためウクライナを対象に。昨年12月と本年1月の2ヵ月を除くと昨秋来降水不足（図表4）。とりわけ本年6月は平年比▲1.4インチのマイナス。収穫減で小麦禁輸に踏み切った2009年8月の同▲1.6インチ以来の大幅な降水不足。エリア別にみると、とりわけ生産量の多い黒海沿岸の早魃が深刻。先週末ロシア南部のクラスノダール州では洪水被害。しかし局所的かつ集中豪雨で農業生産にもダメージ。アメリカを含め、現状、早魃終息の兆しがないなか、少なくとも当面、穀物価格への上昇圧力持続の公算大。

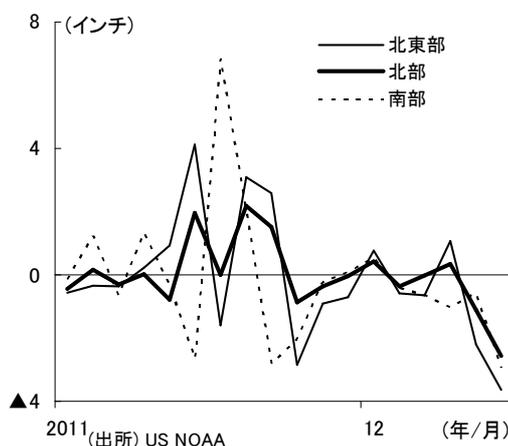
（図表1）主要国・エリア別小麦生産量



（図表2）中国華北平原7都市の降水量



（図表3）インドのエリア別降水量(平年差)



（図表4）ウクライナ穀倉地帯11都市の降水量

